

よんでネット * 春号

発行□茅ヶ崎市立図書館／協力□茅ヶ崎図書館子どもの本の会

もしも地球がひとつのリンゴだったら

デビッド・J・スミス文 スティーブ・アダムス絵 千葉茂樹訳



小峰書店 [40ス]

大きすぎて想像するのもむずかしいことでも
こんなふうにちぢめるとよくわかる。

“もしも太陽系の惑星をボールの大きさにちぢめたら…
水星は卓球のボール。金星はテニスボール。
地球は野球ボール。火星はゴルフボール。
木星はバランスボール。-----”

“もしも35億年の生命の歴史を1時間にちぢめたら…
もしも地球上の水がコップ100杯だとしたら…”

ちぢめてみたら、びっくりするような結果がまっている!

木と日本人

監修・文 ゆのきようこ

樹木画 長谷川 哲雄

- ① 材木 - 丸太と板
- ② 樹皮と枝・つる 理論社
- ③ 葉や花、実と種 [65工]

日本は森の多い国。昔から日本人は、木をさまざまに利用してきた。“材木”で 家や橋、船をつくり、“樹皮”は 衣服や和紙の原料にし、“葉や花”を愛で、“実や種”は 油をひいて 明かりにしたり、栄養豊富な食料としてきた。

暮らしに豊かさをもたらしてくれる、木の恵み。木は「衣・食・住」の生活すべてに関わってきたのだ。





講談社 [913ト]

あめ ち 天と地の方程式 1~3

富安 陽子 五十嵐大介 画

中学2年になる田代有礼は「くるすの丘に來い」と猿に言われる夢を見た。その直後に引越しが決まり、新設の「^{くるす}來栖の丘学園」に通うことになる。同級生はたったの3人。うちひとり、とんでもなく数学が得意、とてつもない馬鹿とうわさのQ。有礼はQとともに異空間にとじこめられてしまう。開発のせいで、^{よもつくに}黄泉ッ国とこの世を隔てる封印の扉が開かれてしまったのだ。

しゅ てん どうじ 酒天童子

竹下文子 著 平沢下戸 絵

平安時代の京の都。公家の姫君がひとりまたひとりと消えてしまった。陰陽師の安部晴明は、丹波国大江山の鬼、酒天童子のしわざだという。源頼光と藤原保昌は、帝から、討ちしずめるように命ぜられる。従うのは頼光の郎党の四天王。

表題作の他「土蜘蛛」「鬼同丸」など、都をおびやかす物の怪に立ちむかう頼光たちの物語を複数の古典を読みとき現代に伝える。



偕成社 [913タ]



新潮社 [913.6ユ]

本屋さんのダイアナ

柚木 麻子

ダイアナという名前は、漢字で「大穴」と書く。そのせいで小学生の頃からからかわれてきたが、同級生の神崎彩子にはげまされ、友情を深めていく。ところが、ささいないきちがいから絶交。

16歳で自分を出産した母、行方知れずの父。幼い時から金色に染められた髪。たくさんの疑問をかかえながらダイアナは成長していく。

ある日、アルバイト先の書店に父が来た ---。